

諏訪小だより

令和7年10月15日
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介
運動会 特別号

大切にしたいことー運動会に込めることとは

校長 齋藤幸之介

9月中旬過ぎまでは「残暑」では十分ではなく、「猛暑」「酷暑」が適切な表現でなかったでしょうか。しかし、地域によってはまだ夏日になるうかという場合もあるようですが、東京は随分と涼しくなり、「今日は少し寒いね」「長袖を着てきたよ」と言う子供たちがいます。短いかもしれない秋は、それでも確実にやってきました。

教職員は、誰もが「運動会の練習は本当にできるのだろうか」と思っていました。しかし、今では熱中症をあまり気にしないで取り組めるようになりました。有難い限りです。

先週末、グラウンドに面した2階ホール窓にはスローガンが掲示されました。「熱く 輝く 最高の運動会」。計画実行委員会の力作です。これからは、この言葉を繰り返しながら、よりよい運動会に向けて取り組むこととなります。

本校の運動会が終日行われる理由

運動会は、ここ数年で大きく様変わりした行事です。その理由の一つは新型コロナウイルス感染症であったことは言うまでもありません。本校では令和2年度に中止となり、令和3年度から再開します。その際には、やはり「午前で終了」「午後まで実施」と二つの意見に分かれました。折衷案というわけではありませんでしたが、1～3年生までが午前で終了、4～6年生は午後まで、としました。翌年、再度の議論によって全学年が終日行うことになりました。「本校の運動会は午後まで」が本校の特色となったわけです。もちろん、ここには「諏訪小の運動会でできるだけ多くの子供たちに活躍させたい」という全教職員の強い思いがあったことは言うまでもありません。

すでに始まっている運動会

運動会には様々なドラマがあります。これはすでに始まっているとも言えます。学年、低・中・高学年それぞれが競技や演技の練習をします。教員の「よくできたね!」「うまくいった!」という声は、見守る私

共にさわやかに響きます。中休みを返上してリレーの練習が行われています。確実に滑らか、そしてバトンを渡す選手と受け取る選手のスピードがぴったり合うように、本番さながらの姿に思わず息のみます。昼休みには応援の練習も行われています。全体を盛り上げるための声、そして太鼓などの音は、一層力強くなります。中には、応援団の一員になれなかった友達の無念さを背負っている子もいます。

様々な思いや願いがある活動がすでに始まっています。

単にこなすのではなく・・・

以前にもお伝えしたかと思いますが、運動会は、体育学習の成果を披露する一方で、運営やそのための準備まで子供たちが関わっていく「特別活動」の行事の一つとして位置付けられています。「集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成する」ために行われる運動会には、子供たちが「責任感や連帯感」を培うことも込められています。特に、高学年は、演技や競技を行う他、係活動という役割を担い、全校で運動会を創り上げることを目指しています。子供たちが演目を行う一方で、これを支える子供たちの動きにも御注目いただければと思います。

もちろん、低・中学年にはその役割は多くはありません。しかし、目の前で、例えばたてわり班活動でお世話をしてくれる高学年が活躍する姿を見れば、「いつかは自分が」と思い描き、そして自己実現を図ろうとするでしょう。これが引き継がれていくことを「学校文化」などと言い、運動会にはこのような多様で深い文化があるからこそ、本校では今のやり方を守っています。

本番まであとわずかとなりましたが、今できる準備を確実にいき、本校の運動会が実り多き行事になるようにしたいと思います。当日、お待ち申し上げております。

<参考>

小学校学習指導要領（平成29年、文部科学省）

改めて「変化」に着目しながら

校長 齋藤幸之介

前ページで運動会について申し述べましたが、何よりも今有難いと思っているのは、子供たちが日々出席をして練習に取り組み、一方で教科等の学習を確実に進めていることです。これも一重に皆様が子供たちの健康管理を確実に行ってくくださるからこそ、と改めて感謝をいたします。児童数は毎年変化をしますので、人数だけで推し量ることはできませんが、例えば欠席者数が一桁になるのは、子供たちの身体の健康が維持されていることに他なりません。

例えば「今、インフルエンザの流行」

以前は、例えば「冬になるとインフルエンザが流行する」は半ば常識として捉えられてきました。しかし、現在は季節を問わず流行ります。現在もインフルエンザの罹患者数の増加が報道されています。市内公立学校で発生している学級閉鎖の原因の一つもインフルエンザであるとされます。

また、新型コロナウイルス感染症は扱いが変わりはしましたが未だに流行する場合があります。ウイルス性胃腸炎なども流行する場合があります。

対策は多々ありますが、何よりも感染症等から自らを守ることが肝要です。月並みですが、快眠・快食や手洗い、といったことが重要となりましょう。そして、自ら健康を維持しながら、抵抗力を高めることが求められましょう。

最近では、例えば換気の大切さが言われます。校舎内を巡視していると、体感によって教室の状況を把握することができます。少々むわっとする、逆に寒いのでは、と感じます。これを調整していくことが求められている、ということになりましょう。複数で観ながら適切な対応をする必要性を改めて感じています。

御家庭では、学校の状況も御理解いただきながら、お子様の症状によって医師からの指示等に従っていただければと存じます。

絶えず「変化」をすることを念頭に置いて

子供たちの体調は常に変化をします。疲

れていて抵抗力が落ちたから風邪をひいた、とよく言われます。また、体質も変わってきます。

私が過去に出会った子供のことをお伝えします。

その子はとても元気な子でした。よく食べ、よく動き、そしてよく学んでいました。ある時、その子が給食でリンゴを食べたら、何となく口の中がかゆい、と言い出しました。すぐに保護者の方に連絡をすると、「今まではそんなことはなかった」との御返答をいただきました。そうかもしれない。しばらくしてまたリンゴが出ました。その子は同じようにかゆみを訴えました。「何かあるのではないか」、それが学校の見解でした。その後、保護者の方はすぐに主治医で受診をしてくださいました。結果は、果物に対するアレルギーがある、でした。ここでの改めての見解の一つは、子供の体質は常に変わる、でした。

私は、子供たちは日々成長し、様々な抵抗力も上がってきてやがて一層健康な生活を送れる、と思っていました。しかし、実際は大きく異なりました。このことは、自身の恥では済まされないあまりに大きな事案、と今でも自分にとっての戒めにもなっています。

例えば「負荷をかける」などと言い、少しずつ試して抵抗力を上げる、という場合もあるでしょう。しかし、正直申し上げてそれは学校では受け入れ難いことです。専門家、つまり医師の判断に基づかなければなりません。そして、慎重を期すために、保護者の方々には必要に応じて医師に生活管理指導表を作成してもらうことをお願いする場合があります。

すでに御承知とは存じますが、過去に発生した都内での悲劇を繰り返すわけにはいきません。そして、そのために、学校だけでなく御家庭の御協力は不可欠です。口幅ったいことを申し上げることはありますが、どうぞ御理解をいただければと存じます。